

EX (絶滅)

ハト目 ハト科

リュウキュウカラスバト

Columba jousi (Stejneger, 1887)

英名: Ryukyu wood pigeon

カテゴリー判定基準: ③

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
Ex	EX	EX

日本固有種

沖縄諸島（沖縄島および周辺の島）と大東諸島固有種。大型のハト類で、1887年沖縄島で発見、採集された。その後沖縄諸島では1928年まで採集記録が知られている。大東諸島では1922年に南、北大東島で発見、採集され1936年まで採集記録が知られている。しかし、その後まったく記録がなく、絶滅したものと考えられている。絶滅の原因は不明。

Columba jousi was a large wood pigeon endemic to the Okinawa and Daito Islands. First taken on Okinawa Island in 1887, specimens were subsequently collected from a number of localities in the Okinawa Islands between 1887 and 1904, and on the Daito Islands between 1922 and 1936. It has not been reported since 1936 and thus the species is assumed to be extinct. The causes of its extinction are not known.

基礎情報

■**形態** Stejneger (1887) による原記載の測定値は、翼長253mm、尾長188mm、露出嘴峰長23mm、ふ蹠長35mm、爪を含む中趾51mm（当時の東京教育博物館所蔵のタイプ標本の測定値。現在山階鳥類研究所所蔵）。基本的には全体に灰黒色で頭頂に紫光沢、腰は緑銅光沢、胸は紫光沢が強い。後頸に緑光沢があり、三日月形の白帯がある（基部が黒色で、先端数mm～数cmが白色の羽毛の集まりで形成されている）。嘴はマリンブルーで先端は白っぽい。虹彩は暗褐色。脚は暗赤紫色。よく似た種としてはカラスバト（*C. janthina janthina*）が同所的に生息しているが、後頸にある三日月形の白帯がカラスバトにはないこと、測定上本種の方が大型であることなどで識別が可能である。

■**分布域** 沖縄諸島（沖縄島および伊平屋島、伊是名島、瀬底島、屋我地島、座間味島）と大東諸島（南大東島、北大東島）に分布していた記録がある。

沖縄諸島では、1887年2月3日沖縄島北部のKun-chan（国頭）でC. Tasakiによって1羽が採集された（Stejneger 1887：タイプ標本、当

時東京教育博物館所蔵、現在山階鳥類研究所所蔵）。その後沖縄島および周辺の島では、1891年12月首里にて1羽（オス、西藤郎採集：山階鳥研所蔵）、1892年4月中頭にて1羽（メス、西常央採集：山階鳥研所蔵）、1891年に那覇と瀬底島にて各1羽（Fritze 1894）、1902年1月に1羽（メス、黒岩恒採集：山階鳥研所蔵、採集地は「沖縄」とのみ記述されている）、1904年4月28日に屋我地島にてオス1羽が採集されている（Ogawa 1905）。また1891年当時には金武近くの森に多く見られたとの記述がある（Fritze 1894）、これらのことから当時は沖縄島全体に広く分布していた可能性が高い。沖縄島からやや離れた周辺の離島では1904年にのみ採集記録が知られている（伊平屋島5月16日オス1羽、伊是名島4、5、7月に数羽、座間味島7月28日オス1羽、長聖道、長田霊端採集：Ogawa 1905）。大東諸島では、1922年に南大東島にて12羽（9オス、2メス、1メス幼鳥、折居彪二郎採集：黒田 1925）、北大東島にて2羽が採集され（折居彪二郎が採集したが標本にはしなかった：黒田 1925）、1936年11月16日に南大東島で1羽（メス、折居彪次郎採集：山階鳥研所蔵）が採集されている。これら以外に、Pryerコレクションとして1890年以前に採集の少なくとも2標本が知ら

れており (Seebohm 1887、1888、1890)、採集地はthe central group of the Loo-Choo Islandsとのみ記載されている。

■生息環境 不明。

■生活史 まったく知られてないが、1892年採集の標本のラベルには「ベーベーと鳴くゆえベーボーの方言名有り」と記入されている。本種の鳴き声についての情報はこれ以外には知られていない。巣卵の記録はまったくなく、繁殖は確認されていない。

絶滅に至った経緯とその要因

不明 (99)。

特記事項

分布のきわめて狭い種として非常に貴重であ

る。国外産のカラスバト類 (*Columba*属) および日本産のカラスバト、オガサワラカラスバト (*C. versicolor*) などとの類縁関係も未解明であり今後の研究が待たれる。

参考文献

- Fritze, A., 1894. Die fauna der Liu-Kiu-Insel Okinawa. Zool. J. B. Syst., 7, Aves: 855-859.
- Hachisuka, M. and T. Udagawa, 1953. Contribution to the Ornithology of the Ryukyu Islands. Quarterly Journal of The Taiwan Museum, 6(3&4): 141-279.
- Kuroda, N., 1925. A Contribution to the Knowledge of the Avifauna of the Riu Kiu Islands and the Vicinity. Published by the author, Tokyo. 293pp.
- Ogawa, M., 1905. Notes on Mr. Alan Owston's collection of Birds from the Islands lying between Kiushu and Formosa. Annotations Zoologica Japonensis, 5(4): 175-232.
- Seebohm, H., 1887. Notes on the birds of the Loo-Choo Islands. Ibis, 29: 173-182.
- Seebohm, H., 1888. Further Notes on the birds of the Loo-choo Islands. Ibis, 30: 232-236.
- Seebohm, H., 1890. The Birds of the Japanese Empire. R. H. Porter, London. 386pp.
- Stejneger, L., 1887. Description of a New Species of Fruit-Pigeon (*Janthoenas jouyi*) from the Liu Kiu Islands, Japan. American Naturalist, 21: 583-584.

執筆者：梶田学